



令和5年度
東京大学アジア研究図書館
活動報告書

令和5年度アジア研究図書館活動報告書目次

I 令和5年度の特記事項	1
II 図書館事業	2
2.1 資料のデジタル化	2
2.2 利用者サービス、広報	2
(1) 利用者サービス.....	2
(2) 広報.....	2
2.3 規則策定.....	3
(1) レクチャールーム予約利用内規の策定	3
(2) アジア研究図書館分館分室検討連絡会議の設置	3
(3) アースターネ・ゴドゥス・ラザヴィー図書館・博物館・文書館機構との協力覚書の策定.....	3
(4) アジア研究図書館開架資料分類表およびアジア研究図書館開架資料の分類とラベル（総則）の改定..	3
(5) アジア研究図書館運営委員会の開催日について	3
2.4 資料の収集・管理	3
(1) 移管の進捗.....	3
(2) アジア研究図書館選書委員会.....	4
(3) 購入資料	4
(4) 寄贈資料一覧	6
2.5 学内との連携.....	6
(1) 図書館実習（インターンシップ）への協力.....	6
(2) 図書系初任者（若手職員）研修への協力	6
(3) 学生協働	6
(4) 「教員著作物の可視化と国際発信」事業との連携.....	6
2.6 社会連携活動.....	7
(1) 国立国会図書館アジア情報関係機関懇談会参加	7
2.7 海外機関との連携	7
(1) TRCCS からの資料寄贈	7
(2) 燕京図書館館長・職員の訪問.....	7
(3) 韓国国会図書館職員の訪問	7
(4) デリー大学学生の訪問.....	7
(5) アースターネ・ゴドゥス・ラザヴィー図書館・博物館・文書館機構との協力覚書に署名.....	8
2.8 図書関係ワークショップ.....	8
(1) 「アジア資料目録ワークショップ：サンスクリット編」	8
(2) アジアンライブラリーカフェ No.7 「文献で見るパンダ観の歴史」	8
2.9 アジア研究図書館会議	8
(1) 運営委員会.....	8

(2) アジア研究図書館分館分室検討連絡会議	9
2.10 統計	10
(1) 蔵書数、資料費総額、館外貸出冊数の経年変化	10
III 研究事業	11
3.1 シンポジウム・学会等の開催・参加	11
(1) U-PARL 「アジアの資料をむすび、ひらく—デジタルコレクションの可能性—」展	11
(2) 人文社会科学系組織連絡会議共催イベント「ことばと社会」	11
(3) 「識字教育資料からアジアの社会をみる：ユネスコ・アジア文化センター寄贈コレクション」展および記念セミナー	11
(4) U-PARL シンポジウム「むすび、ひらくアジア 5：人文学における研究データの共有・公開に向けて」	11
3.2 成果の公開	12
(1) 板橋暁子・河原弥生・河崎豊編『識字教育資料からアジアの社会をみる：ユネスコ・アジア文化センター寄贈コレクション令和5年度東京大学アジア研究図書館展示図録』	12
(2) U-PARL・荒木達雄編『なぜ古い本を網羅的に調べる必要があるのか：漢籍デジタル化公開と中国古典小説研究の展開（U-PARL 協働型アジア研究叢書）』	12
(3) 高島俊男原著、荒木達雄・石川就彦・藤村明日香翻刻／校注『翻刻 高島俊男《水滸伝語彙辞典稿》Jの部（下）』	12
(4) 須永恵美子・熊倉和歌子編著『イスラーム・デジタル人文学（U-PARL 協働型アジア研究叢書）』 ..	12
(5) 東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門（U-PARL）編『東京大学アジア研究図書館デジタルコレクション 2017-2023』	13
(6) 澁谷由紀・宇戸優美子・佐藤章太編『ライブラリアンのためのベトナム語・タイ語用語集 ラオス語・クメール語用語集付き（U-PARL 協働型アジア研究叢書）』	13
(7) 荒木達雄編『2022-2023 年度協働型アジア研究「東京大学蔵『水滸伝』諸版本デジタルデータの整備およびこれを用いた研究」成果報告集』	13
(8) 澁谷由紀編『アジア研究図書館所蔵古田元夫氏旧蔵資料目録』	13
(9) 河原弥生・早矢仕悠太編、小野仁美解題『アジア研究図書館所蔵柳橋博之氏旧蔵資料目録』	13
(10) 徳原靖浩編、富澤かな解説『アジア研究図書館所蔵奈良毅文庫目録』	14
3.3 協働型アジア研究拠点の形成	14
3.4 個人研究業績	14
(1) RASARL メンバー	14
(2) U-PARL メンバー	18
IV. 構成員等名簿	24
4.1 運営委員会名簿	24
4.2 構成員名簿	24
別紙 1	25
別紙 2	27

注記：

東京大学附属図書館にはアジア研究図書館研究開発部門およびアジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門の2部門が存在している。本報告書では略称を用い、前者を RASARL (Research Advancement Section for the Asian Research Library)、後者を U-PARL (Uehiro Project for the Asian Research Library) と表記する。U-PARL は国立大学法人東京大学の運営費ではなく公益財団法人上廣倫理財団からの寄付金によって運営されている。そのため U-PARL の予算を使用した活動についてはその旨明記した。

I 令和5年度の特記事項

館長 佐川英治

RASARL 助教2名のうち1名（河野正）の退職に伴い、令和5年4月、後任1名（板橋暁子）が着任した。令和6年3月、イランのアースターネ・ゴドゥス・ラザヴィー図書館・博物館・文書館機構（レザー廟図書館）との間で協力覚書が成立した。令和4年度に引き続き、選書委員会の活動を通じてコレクションの構築を進めるとともに、アジア研究図書館叢書第4巻・第5巻・第6巻を刊行した。

II 図書館事業

2.1 資料のデジタル化

(1) 館内所蔵資料

『東京大学アジア研究図書館デジタルコレクション』を構成する「水滸伝コレクション」に、U-PARL は以下 5 点の資料を追加し公開した（漢数字・アラビア数字はママ）。

- ・忠義水滸全書 一百二十回存四回
- ・第五才子書施耐菴水滸傳 七十五卷
- ・忠義水滸全傳 120 回圖 1 卷、宣和遺事 1 卷
- ・忠義水滸全傳 120 回
- ・忠義水滸全書 一百二十回首一卷圖一卷附宣和遺事一卷

同じく「U-PARL セレクション」に、U-PARL は以下 2 点の資料を追加し公開した。

- ・Vedische und Sanskrit-Syntax
- ・Pagode de Dakao

2.2 利用者サービス、広報

(1) 利用者サービス

博士課程学生3人をカウンタースタッフとして雇用し、貸出業務や利用者対応等をおこなった。当該学生らはカウンター業務の他、アジア研究図書館所蔵資料の整理業務も担当した（関連項目：II-2.5.(2)学生協働）。

(2) 広報

A. 『アジア研究図書館（東京大学アジア研究図書館ニューズレター）』発行

令和5年度は第11号（令和5年4月4日発行）、第12号（令和5年7月3日発行）、第13号（令和5年10月2日発行）、第14号（令和6年1月9日発行）、合計4号を発行し、当館ウェブサイトで公開した。

参考URL：<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia/newsletter>

B. 図書館総合展

令和5年10月25日～26日にパシフィコ横浜で開催された第25回図書館総合展において、RASARLはポスターセッションの形式で出展し、主としてユネスコ・アジア文化センター（ACCU）資料コレクションの利用開始、および翌11月開催予定のACCU資料展示・記念セミナーの広報をおこなった（<https://www.libraryfair.jp/poster/2023/169>）（関連項目：III-3.1.(3)）。

澁谷由紀 U-PARL 特任研究員・宇戸優美子 U-PARL 特任専門職員は同じく現地会場にてポスターセッション「現代東南アジアにおける出版に関する諸問題：ベトナムとタイを中心に」を出展した（<https://www.libraryfair.jp/poster/2023/150>）。

また、U-PARL はオンラインにてポスターセッションへの出展をおこなった（<https://www.libraryfair.jp/poster/2023/147>）。オンライン開催期間は10月26日～11月15日。

2.3 規則策定

(1) レクチャールーム予約利用内規の策定

令和5年7月14日に開催された第3回アジア研究図書館運営委員会にて、「東京大学アジア研究図書館レクチャールーム予約利用内規（案）」について協議がおこなわれ、原案どおり承認された（巻末別紙1参照）。

令和5年9月1日から、レクチャールームの予約利用を開始した。

(2) アジア研究図書館分館分室検討連絡会議の設置

令和5年10月25日に開催された第5回アジア研究図書館運営委員会にて、アジア研究図書館分館分室の設置に先立ち、アジア研究図書館分館分室検討連絡会議の設置について協議がおこなわれ、同会議の設置が了承された。

(3) アースターネ・ゴドゥス・ラザヴィー図書館・博物館・文書館機構との協力覚書の策定

同じく第5回運営委員会にて、イランのアースターネ・ゴドゥス・ラザヴィー図書館・博物館・文書館機構（レザー廟図書館）との協力覚書について協議がおこなわれ、原案どおり了承された（巻末別紙2参照）。

(4) アジア研究図書館開架資料分類表およびアジア研究図書館開架資料の分類とラベル（総則）の改定

同じく第5回運営委員会にて、従来の分類表を一部修正した「アジア研究図書館開架資料分類表（案）」および従来のラベル（総則）から分類規定のみを抜粋し整理した「アジア研究図書館の請求記号に関する総則（案）」について協議がおこなわれ、原案どおり承認された。また、分類表英語版の確定については選書委員会での審議事項とすることが了承された。

(5) アジア研究図書館運営委員会の開催日について

令和6年2月16日に開催された第8回アジア研究図書館運営委員会にて、令和6年度以降の同運営委員会は、原則として年4回（5・7・11・2月前後）の定期開催とすることが提案され、了承された。

2.4 資料の収集・管理

令和5年度の資料受入冊数は、部局からの移管分が5,460冊、購入分が567冊、寄贈分が2,808冊で合計8,835冊であった。これにより令和6年3月末時点でアジア研究図書館の蔵書冊数は65,620冊（うち自動書庫入庫冊数は28,889冊、開架蔵書冊数は36,731冊）となった。蔵書冊数のうち配架冊数は64,082冊である。

(1) 移管の進捗

令和4年度に引き続き、令和5年度は自動書庫への入庫を前提とした他部局からの移管をおこなった。5,460冊の移管資料はすべて自動書庫へ配架された。

(2) アジア研究図書館選書委員会

令和5年4月24日に令和5年度第1回、6月26日に第2回、9月11日に第3回、11月27日に第4回、令和6年2月19日に第5回選書委員会が開催された。選書委員会の構成は以下の通り。

委員長 森本一夫

担当地域	主担当	副担当
1 アジア	徳原靖浩	
2 東アジア	板橋暁子	荒木達雄、中尾道子
3 東南アジア	澁谷由紀	
4 南アジア	河崎豊	須永恵美子
5 中央ユーラシア	河原弥生	
6 西アジア	徳原靖浩	
事務部	原香寿子	蓮見ちひろ

今年度委員会の主要な活動として、各地域担当者による選書（次節参照）のほか、令和5年5月時点でのアジア研究図書館の蔵書に関する分析を行い、『アジア研究図書館（東京大学アジア研究図書館ニューズレター）』13号にて発表した。また、開架書架の狭隘化対策を検討し、狭隘化がとくに進行していた「東アジア」および「西アジア」開架書架のうち6,995冊を自動書庫に移動させた。

(3) 購入資料

A. 購入資料

1. アジア

各選書委員から推薦を募り、学内他部局で扱いの少ない現代的なテーマ（アート、安全保障、女性、観光、権威主義等）に関する英語の研究書のほか、華語-スペイン語辞典など計33冊を購入した。さらに追加予算を割り、アジアの複数地域を対象とした現代的な課題に関する英語の研究書57点を購入した。

2. 東アジア

中国語資料は国際交換システムおよびTRCCS交流など寄贈ルートが充実していることもあり、新規購入は少数になったが、従来当館が所蔵してきた『中国文物地図集』シリーズの未所蔵分冊（上海・黒竜江）および辞書類あわせて4点を購入した。朝鮮語資料は歴史・地理・古典文学・映画など人文社会系の多様な分野にまたがる計40点、英語資料は中国および朝鮮半島の近現代史関連を中心として計16点（うち1点は「1. アジア」に配架）を購入した。

また、U-PARL予算により、満洲関連の大型資料を購入した（『愛新覚羅宗譜』30冊・『北京図書館蔵家譜叢刊：民族巻』100冊・『清代八旗史料匯編』18冊・『黒図档』シリーズ72冊（「総目録」16冊・「康熙朝（上）」28冊・「康熙朝（下）」28冊））。

3. 東南アジア

蔵書数の少ないミャンマー、ラオス、東ティモールを主題とした図書に重点を置き、合計 57 タイトル 58 冊の選書をおこなった。内訳は(1)ミャンマーの政治・経済・歴史等に関するミャンマー語図書 14 タイトル 14 冊、(2)ラオスの言語・民俗に関するラオス語図書 10 タイトル 10 冊、(3)ポルトガルで出版された東ティモールの歴史や国際関係に関する主にポルトガル語の図書 11 タイトル 11 冊、(4)東南アジアの華人や銅鼓に関する中国語図書 5 タイトル 5 冊、(5)主に欧米諸国で刊行された東南アジア諸地域に関する英語の研究書等 17 タイトル 18 冊であった。

4. 南アジア

令和 4 年度に引き続き、南アジアの各地域間における資料数の偏りを是正するため、資料が不足する地域を対象とする選書を主におこなった。バングラデシュ最古の学術出版社である University Press Limited からの出版物の入手が容易となったため、当該出版社の出版物を中心としてバングラデシュ関係資料の収集に注力した。この他、同様に資料が不足する地域のものとして現代パーキスタンに関係する若干の資料を購入し、継続購入の対象となっている資料（今年度は Murti Classical Library の一連のシリーズ）を収集した。

5. 中央ユーラシア

中央アジア、モンゴル、コーカサス、クリミアの歴史、伝記、人類学に関する図書を中心に、西洋諸語資料 6 点、ロシア語資料 12 点、ペルシア語資料 2 点を購入した。参考図書としては、新アルファベットのアゼルバイジャン語・英語辞典、グルジア語古語辞典、タジク語ロシア語辞典の 3 点を購入した。

6. 西アジア

令和 5 年度は開架フロアの西アジアスペースの狭隘化のために自動書庫に移動する資料を検討するために、分類ごとの蔵書量を確認した。その結果を受けて、所蔵の少ないトルコ語資料を充実すべく、オスマン帝国史分野を中心に 32 冊を購入したほか、また、学内で重点的に収集されていない現代の中東・イスラーム地域に関する新しい英語の研究書や、新しいペルシア語辞典等を補充した（合計 59 冊）。

B. データベース

データベース名称	概要
Archives Unbound. The Observer: News for the American Soldier in Vietnam, 1962-1973	ベトナムの米軍軍事支援司令部（Military Assistance Command, Vietnam, MACV）の情報局指令情報課によって発行された週刊新聞
Archives Unbound. European Colonialism in the Early 20th Century: French Colonialism in Africa: From Algeria to Madagascar, 1910-	アフリカのフランス植民地に関する米国務省文書集
『中華経典古籍庫』第9期・第10期	中国の出版社が手がけた漢籍整理本の成果を反映したもの
Brill's Encyclopedia of Buddhism Online	Brill社の仏教百科事典オンライン版
Brill's Encyclopedia of Hinduism Online	Brill社のヒンドゥー教百科事典オンライン版
Brill's Encyclopedia of Jainism Online	Brill社のジャイナ教百科事典オンライン版

上記はすべてU-PARLにより導入された。上記のほかArchives Unboundのデータベース「S. Relations and Policies in Southeast Asia, 1944-1958: Records of the Office of Southeast Asian Affairs（米国務省 東南アジア局文書集 1944-1958年）」および「Evangelism in India: Correspondence of the Board of Foreign Missions, 1833-1910（インド伝道関係長老派教会書簡集 1833-1910年）」のトライアルを行った（令和5年5月1日～6月15日）。

(4) 寄贈資料一覧

当館ではアジア研究者・諸機関から寄贈資料を受け入れてきた。令和5年度中に受入が決定したコレクションは以下の通りである。

名称	寄贈年度	内容	点数
大野盛雄氏旧蔵資料	令和5年度	西アジアの農村に関する資料（主にペルシア語資料）	約1,300

2.5 学内との連携

(1) 図書館実習（インターンシップ）への協力

河崎RASARL助教が令和5年8月21日に開催された令和5年度図書館実習（インターンシップ）において「アジア研究図書館の活動」と題する講義をおこなった。

(2) 図書系初任者（若手職員）研修への協力

河崎RASARL助教が令和5年11月14日に開催された令和5年度図書系初任者（若手職員）研修において「アジア研究図書館の活動」と題する講義をおこなった。

(3) 学生協働

本学の博士課程学生支援オンキャンパスジョブ事業を利用し、修士課程学生3人を雇用して当館所蔵資料の整理業務をおこなっている。令和5年度にはペルシア語・トルコ語資料の整理をおこなった。この他、カウンター業務でも学生と協働している。（関連項目：II-2.2.(1)利用者サービス）

(4) 「教員著作物の可視化と国際発信」事業との連携

本学教員の著作について執筆者自らが紹介を行う UTokyo BiblioPlaza に、RASARL から河原准教授の編著1件、河崎助教の編著1件・共編著1件、板橋助教の共編著1件・共著1件が掲載された。それぞれについて、【 】内の教員が紹介をおこなった。

- ・河崎豊編『アジア研究図書館所蔵ユネスコ・アジア文化センター識字教育資料目録』3、東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門、2023年【河崎】
- ・河原弥生編『アジア研究図書館所蔵ユネスコ・アジア文化センター識字教育資料目録』2、東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門、2023年【河原】
- ・河崎豊・藤永伸編訳『ジャイナ教聖典選』国書刊行会、2022年【河崎】
- ・小浜正子・板橋暁子編『東アジアの家族とセクシュアリティ：規範と逸脱』京都大学学術出版会、2022年【板橋】
- ・小浜正子・下倉渉・佐々木愛・高嶋航・江上幸子編『中国ジェンダー史研究入門』京都大学学術出版会、2018年【板橋】

2.6 社会連携活動

(1) 国立国会図書館アジア情報関係機関懇談会参加

国立国会図書館関西館アジア情報室は、平成13年度からアジア情報関係機関間の交流を図り、国全体としてのアジア情報資源の充実とアジア情報の流通促進に資することを目的として国立国会図書館アジア情報関係機関懇談会を開催している。令和5年度は「アジア資料の蔵書構築の現状と課題」をテーマとして、令和6年2月9日に関西館第一研修室で開催され、河崎RASARL助教が「東京大学アジア研究図書館の蔵書評価」と題した報告をおこなった。

河崎助教の報告は、『アジア研究図書館（東京大学アジア研究図書館ニューズレター）』第13号の各地域担当者寄稿「アジア研究図書館の蔵書について」に示されたデータを土台として、アジア研究図書館の蔵書評価を地域・言語・主題・出版年・出版国・由来等の観点から紹介したものである。また、個別発表後の全体討議では各機関の図書関係者と情報交換がおこなわれた。報告資料は国立国会図書館ウェブサイトで公開されている。

2.7 海外機関との連携

(1) TRCCS からの資料寄贈

台湾国家図書館と東京大学附属図書館間の台湾漢学リソースセンター（TRCCS）協定に基づき、令和5年度も資料の寄贈を受けた。寄贈候補リスト受領後、令和5年5月30日に選書委員会を開催し寄贈希望リストを作成した。令和5年度は合計87冊受贈し当館に配架された。

(2) 燕京図書館館長・職員の訪問

令和5年5月22日、ハーヴァード大学燕京図書館（Harvard-Yenching Library）館長のJidong Yang氏および同館日本部門担当のサブジェクト・ライブラリアンのマクヴェイ山田久仁子氏が総合図書館を訪問し、4階の当館見学時に紹介と交流をおこなった。後日同館より寄贈候補リストを提示いただいた上、目録を中心とする資料の寄贈を受け入れた。

(3) 韓国国会図書館職員の訪問

令和5年9月20日、韓国国会図書館（National Assembly Library, Republic of Korea）職員3名が総合図書館を訪問し、4階の当館見学時に紹介と交流をおこなった。主として当館の韓国朝鮮関連資料の収集状況や北朝鮮刊行資料の所蔵状況等について情報共有をおこなった。

(4) デリー大学学生の訪問

令和5年12月19日、加藤隆宏准教授（本学人文社会系研究科・文学部）の引率により、JST さくらサイエンスプログラムを通じて同研究室で研修活動中のデリー大学学生10名が総合図書館を訪問し、4階の当館見学時に紹介と交流をおこなった。ACCU資料の関係国のひとつであるインドからの訪問者に『アジア研究図書館所蔵ユネスコ・アジア文化センター識字教育資料目録』1～3巻および『令和5年度東京大学アジア研究図書館展示図録：識字教育資料からアジアの社会をみる：ユネスコ・アジア文化センター寄贈コレクション』（関連項目：III-3.2.(1))を献呈する貴重な機会ともなった。

(5) アースターネ・ゴドゥス・ラザヴィー図書館・博物館・文書館機構との協力覚書に署名
 イスラーム圏で最大級の図書館であるイランのアースターネ・ゴドゥス・ラザヴィー図書館・博物館・文書館機構（レザー廟図書館）と当館は、研究促進のため、令和6年3月16日付で協力覚書を取り交わした。マシュハドで行われた調印式では、セイエド・ジャラル・ホセイニー機構長と佐川英治アジア研究図書館長により、両者の学術交流を約した覚書に署名が行われた。当館からは世話教員の森本一夫教授も出席した。

2.8 図書関係ワークショップ

(1) 「アジア資料目録ワークショップ：サンスクリット編」

U-PARL の携わる図書館機能開拓研究に関する活動として、U-PARL 協働型アジア研究プロジェクト 2「アジア情報資源の組織化に関する研究：目録作成ワークショップとマニュアル作成」（代表：徳原靖浩）の主催により、令和5年6月27日に「アジア資料目録作成ワークショップ」第6回（サンスクリット編）がハイブリッド方式で実施された（会場：総合図書館）。徳原靖浩 U-PARL 特任助教により趣旨説明がおこなわれ、伊澤敦子氏（国際仏教学大学院大学附属図書館非常勤職員）・興津香織氏（日本大学文理学部准教授）が「サンスクリット資料の概要と目録作成」と題した報告をおこない、会場との質疑応答および意見交換がおこなわれた。

(2) アジアンライブラリーカフェ No.7「文献で見るパンダ観の歴史」

アジアと図書館を楽しむ U-PARL 主催のトークイベント、「アジアンライブラリーカフェ」シリーズの第7回として、「パンダはかわいい！」は常に真実なのか？：文献で見るパンダ観の歴史」が令和5年10月24日に総合図書館にて実施され、オンラインライブ配信もおこなわれた。前半では時系列順の文献紹介、後半では家永真幸氏（東京女子大学教授）・藤岡みなみ氏（文筆家、ラジオパーソナリティ）・荒木達雄 U-PARL 特任研究員による座談会、会場との質疑応答がおこなわれた。会場参加者は21名、オンライン視聴者数は延べ72名に達した。

2.9 アジア研究図書館会議

(1) 運営委員会

令和5年度の運営委員会は以下の通りオンラインで開催された。

	開催日	出席委員数
第1回運営委員会	令和5年5月19日	13名
第2回運営委員会	令和5年6月23日（メール審議）	—
第3回運営委員会	令和5年7月14日	12名
第4回運営委員会	令和5年9月22日（メール審議）	—
第5回運営委員会	令和5年10月25日	10名
第6回運営委員会	令和5年12月6日（メール審議）	—

(2) アジア研究図書館分館分室検討連絡会議

運営委員会の承認を経て（関連項目：II-2.3.(2)）、令和5年度よりアジア研究図書館分館分室検討連絡会議が発足し、第1回が12月4日、第2回が令和6年3月6日に開催された。当館および東洋文化研究所・漢籍コーナー・文学部図書室の関係者から構成される委員が出席した。

この他、RASARL・U-PARL間の部門間連絡会議（毎月1回）も開催された。

2.10 統計

(1) 蔵書数、資料費総額、館外貸出冊数の経年変化

配架冊数経年変化		単位：冊
地域別分類（大型本・自動書庫含む）		令和5年度末 配架冊数
1	アジア（東洋文庫を含む）	4,622
2	東アジア	23,651
3	東南アジア	7,686
4	南アジア	10,456
5	中央ユーラシア	4,911
6	西アジア	9,839
TRCCS	TRCCS	857
R1	参考図書（アジア）	31
R2	参考図書（東アジア）	405
R3	参考図書（東南アジア）	252
R4	参考図書（南アジア）	315
R5	参考図書（中央アジア）	165
R6	参考図書（西アジア）	233
その他	製本雑誌	658
	準貴重図書	1
合計		64,082
貸出数		冊
		2,708

資料費		単位：千円
	RASARL	6,190
	U-PARL (データベース購入費・維持費含む)	7,906
	合計	14,096

III 研究事業

3.1 シンポジウム・学会等の開催・参加

(1) U-PARL 「アジアの資料をむすび、ひらくーデジタルコレクションの可能性ー」展

令和4年度からの継続事項として、令和5年3月6日から4月21日まで、U-PARL 作成・提供「アジア研究図書館デジタルコレクション」の原資料を展示する「アジアの資料をむすび、ひらくーデジタルコレクションの可能性ー」展が U-PARL により開催された。詳細は『令和4年度アジア研究図書館活動報告書』III-3.1.(5)参照。

(2) 人文社会科学系組織連絡会議共催イベント「ことばと社会」

当館が参加する本学の人文社会科学系組織連絡会議の活動として、令和5年11月1日から30日まで、研究月間「ことばと社会」が設定された。当館からはRASARLが「識字教育資料からアジアの社会をみるーユネスコ・アジア文化センター寄贈コレクションー」展および記念セミナーの開催、U-PARLが「むすび、ひらくアジア5：人文学における研究データの共有・公開に向けて」シンポジウムの開催という形で活動に参加した（詳細は以下の項目）。

(3) 「識字教育資料からアジアの社会をみる：ユネスコ・アジア文化センター寄贈コレクション」展および記念セミナー

2014年に当館が公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）より受贈した識字教育資料3,487点の目録刊行など、「ユネスコ・アジア文化センター寄贈識字教育資料」コレクションの整備にともない、令和5年11月1日～30日の1か月間、第1期は「識字」、第2期は「女性」をテーマとして「識字教育資料からアジアの社会をみる：ユネスコ・アジア文化センター寄贈コレクション」展を総合図書館にて開催した。11月9日開催の記念セミナーはハイブリッド方式で実施され、以下3つの講演がおこなわれた（会場参加者8名、オンライン参加者17名）。

- ・河原 RASARL 准教授「アジア研究資料としての識字教育資料コレクション：受贈から展示まで」
- ・若山洋子氏（ACCU 教育協力部主任）「ACCU による識字協力事業：これまでの歩みと今後の展望」
- ・小林正人氏（人文社会系研究科教授）「目録から見る ACCU 識字教育資料の全体像と学術的価値について」

(4) U-PARL シンポジウム「むすび、ひらくアジア5：人文学における研究データの共有・公開に向けて」

個々の研究者による研究データのデジタル化と共有の在り方について考えることをテーマとして、令和5年11月26日に U-PARL シンポジウム「むすび、ひらくアジア5：人文学における研究データの共有・公開に向けて」が総合図書館にて実施され、オンラインライブ配信もおこなわれた。

第一部「知識資源のデジタル化と公開の事例」では以下3つの講演がおこなわれた。

- ・徳原靖浩 U-PARL 特任助教「図書資料のデジタル化：アジア研究図書館デジタルコレクション」
- ・柳澤雅之氏（京都大学東南アジア地域研究研究所准教授）「フィールドノートのデジタル化と多目的・長期的利用」

- ・渡邊英徳氏（東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授）「戦災・災害のデジタルアーカイブ」

第二部「分野横断的な研究データの共有・公開に関する取り組み」では以下3つの講演がおこなわれた。

- ・池内有為氏（文教大学文学部准教授、文部科学省科学技術・学術政策研究所客員研究官）「分野や国境を超えた人文学データの共有」
- ・南山泰之氏（国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター特任助教）「NII RDCにおけるデータキュレーション機能の開発」
- ・大向一輝氏（東京大学大学院人文社会系研究科附属次世代人文学開発センター准教授）「研究データエコシステムとデジタルアーカイブ」

第三部のパネルディスカッションでは、講演者全員による討論および会場との質疑応答がおこなわれた。会場参加者19名、オンライン参加者140名以上の活況を呈した。

3.2 成果の公開

- (1) 板橋暁子・河原弥生・河崎豊編『識字教育資料からアジアの社会をみる：ユネスコ・アジア文化センター寄贈コレクション令和5年度東京大学アジア研究図書館展示図録』

（RASARL、2023年11月）

令和5年11月開催の「識字教育資料からアジアの社会をみる：ユネスコ・アジア文化センター寄贈コレクション」展（関連項目：III-3.1.(3)）において展示された展示資料（第1期42点、第2期41点）の書誌情報を収録。

- (2) U-PARL・荒木達雄編『なぜ古い本を網羅的に調べる必要があるのか：漢籍デジタル化公開と中国古典小説研究の展開（U-PARL協働型アジア研究叢書）』

（文学通信、2023年12月）

2020年に開催されたオンラインシンポジウム「漢籍デジタル化公開と中国古典小説研究の展開」を書籍化。シンポジウム上の報告・ディスカッションに加え、後日行われた討論会の記録および「付録 主なデジタル化公開済みの清代までの『水滸伝』諸本」等を収録。

- (3) 高島俊男原著、荒木達雄・石川就彦・藤村明日香翻刻／校注『翻刻 高島俊男《水滸伝語彙辞典稿》Jの部（下）』

（2023年12月 ※発行者は研究プロジェクト名称に同じ）

2022-2023年度U-PARL協働型アジア研究「東京大学蔵『水滸伝』諸版本デジタルデータの整備およびこれを用いた研究」（代表：荒木達雄）が取り組んできた、中国文学研究者の故・高島俊男氏『水滸伝語彙辞典稿』未公刊原稿等を翻刻する作業の成果の一部として刊行。

- (4) 須永恵美子・熊倉和歌子編著『イスラーム・デジタル人文学（U-PARL協働型アジア研究叢書）』

（人文書院、2024年2月）

2022-2023年度U-PARL協働型アジア研究プロジェクト「南アジア関連資料のデジタル画像化とテキスト化に関する研究」の成果の一部として刊行。同プロジェクト代表者・本書編者の須永恵美子氏による「イスラーム・デジタル人文学ことはじめ」「イスラーム圏のデジタ

ル資料を扱う研究プロジェクト・公文書館・デジタルアーカイブ」ほか、プロジェクト関係者の原稿を収録。

- (5) 東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門 (U-PARL) 編『東京大学アジア研究図書館デジタルコレクション 2017-2023』

(U-PARL、2024年2月)

「東京大学アジア研究図書館デジタルコレクション」(<https://iif.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/repo/s/asia/page/home>)にて令和5年9月までに公開された全資料および公開準備中の一部資料の版面画像、資料解説を収録。

- (6) 澁谷由紀・宇戸優美子・佐藤章太編『ライブラリアンのためのベトナム語・タイ語用語集 ラオス語・クメール語用語集付き (U-PARL 協働型アジア研究叢書)』

(U-PARL、2024年3月)

2022-2023年度 U-PARL 協働型アジア研究プロジェクト「近現代東南アジアにおける出版に関する研究：ベトナムとタイを中心に」(代表：澁谷由紀)の成果の一部として刊行。第23回図書館総合展 2021_ONLINE_plus 出展時に公開されたPDF版(初版)の第2版。日本語・英語併記とし、ベトナム語編・タイ語編の一部を改訂するとともに、千葉綾乃氏らの協力を得て、新たにラオス語(ラオ語)用語集・カンボジア語(クメール語)用語集を附録として収録。

- (7) 荒木達雄編『2022-2023年度協働型アジア研究「東京大学蔵『水滸伝』諸版本デジタルデータの整備およびこれを用いた研究」成果報告集』

(2024年3月 ※発行者は研究プロジェクト名称に同じ)

U-PARL 共同研究員の小松謙氏による講演録「『水滸伝』訳注作成について」をはじめ、掲題の研究プロジェクト関係者による翻訳方法論、研究回顧、版本解題、デジタルデータ整備の方法、若手研究者・大学院生の研究要旨等の原稿を収録。

このほか、令和3年度に創刊した「アジア研究図書館叢書」の続刊として、第4巻・第5巻・第6巻を刊行した。いずれも著名なアジア研究者もしくはご遺族より当館に寄贈された資料を目録化したものである(いずれも2024年3月にRASARL発行)。

- (8) 澁谷由紀編『アジア研究図書館所蔵古田元夫氏旧蔵資料目録』

(アジア研究図書館叢書4)：図書259点、製本雑誌108点、マイクロ資料69点、CD-ROM3点から成る439点の書誌情報を収録し、その大半がベトナム語資料である。主題は政治と歴史に関するものが全体の6割以上を占める。

- (9) 河原弥生・早矢仕悠太編、小野仁美解題『アジア研究図書館所蔵柳橋博之氏旧蔵資料目録』

(アジア研究図書館叢書5)：図書371点の書誌情報を収録し、そのうち346点がアラビア語資料である。主題はハディース学とイスラーム法学が全体の9割以上を占める。

(10) 徳原靖浩編、富澤かな解説『アジア研究図書館所蔵奈良毅文庫目録』

(アジア研究図書館叢書 6) : 図書 262 点、雑誌 4 点から成る 266 点の書誌情報を収録する。南アジア言語に関連する資料が全体の 7 割近くを占める。

3.3 協働型アジア研究拠点の形成

令和 5 年度には U-PARL にて以下の 6 つの研究プロジェクトが実施された。

- ・プロジェクト 1「古代エジプト研究の総合知創出に向けた基礎的取り組み」(代表: 永井正勝 ※同氏の離任により令和 5 年 7 月より代表: 蓑輪顕量 (U-PARL 部門長))
- ・プロジェクト 2「アジア情報資源の組織化に関する研究: 目録作成ワークショップとマニュアル作成」(代表: 徳原靖浩)
- ・プロジェクト 3「東京大学蔵『水滸伝』諸版本デジタルデータの整備およびこれを用いた研究」(代表: 荒木達雄)
- ・プロジェクト 4「近現代東南アジアにおける出版に関する研究: ベトナムとタイを中心に」(代表: 澁谷由紀)
- ・プロジェクト 5「南アジア関連資料のデジタル画像化とテキスト化に関する研究」(代表: 須永恵美子)
- ・プロジェクト 6「東京大学所蔵アジア研究情報資源の組織化と公開に関する研究」(代表: 中尾道子)

3.4 個人研究業績

期間: 令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日

略号: ①書籍②雑誌論文・本の一章③その他刊行物等④口頭発表⑤受賞⑥競争的資金⑦社会活動・教育活動等

(1) RASARL メンバー

佐川英治 (館長・RASARL 部門長・兼務教員/人文社会系研究科)

①佐川英治編『君主号と歴史世界』山川出版社、2023 年 10 月、248 頁。

②佐川英治「都城の系譜—東アジアのなかの藤原京と平城京—」、ファム・レ・フイ (Phạm Lê Huy) 編『日本の都城と東アジア』(Đô thành Nhật Bản và Đông Á)、ハノイ: 世界出版社 (Thế giới)、2022 年 8 月、1-15 頁。 ※左記は奥付の刊行年月

②佐川英治、「軍功と賜爵—秦漢二十等爵制の考察—」、『東洋史研究』82 巻 2 号、2023 年 9 月、189-222 頁。

②佐川英治、付晨晨訳「都城制分期的歴史学和考古学—以曹魏鄴城、洛陽城的復原為中心—」『東亜文明』4 輯、2023 年 12 月、北京: 社会科学出版社。

③佐川英治「曹全碑 (東京大学アジア研究図書館デジタルコレクションより)」『アジア研究図書館 (東京大学アジア研究図書館ニューズレター)』11 号、2023 年 4 月、7-8 頁。

③佐川英治、「書評 村元健一著『日本古代宮都と中国都城』」、『史学雑誌』132 編 6 号、2023 年 6 月、1030-1038 頁。

③佐川英治「出土木簡で読み解く漢代長城地帯の日常と暮らし」、『東京大学新聞』2994、2023 年 10 月 10 日、23 面。

- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（C））「初期碑文慣行を通じてみる中国古代の社会結合の特徴に関する研究」課題番号 23K00878（研究代表者：佐川英治）、研究代表者、2023 年度～2025 年度。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（A））「南縁・東縁地域における郡県都市の変容からみた「漢帝国の遺産」の東アジア史的意義」課題番号 21H04367（研究代表者：黄曉芬）、研究分担者、2021 年度～2026 年度。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（B））「中国古代軍事史の多角的検討—「公認された暴力」のありか—」課題番号 19H01318（研究代表者：宮宅潔）、研究分担者、2019 年度～2024 年度。
- ⑦放送大学、「中国と東部ユーラシアの歴史」第 1 回～第 5 回。
- ⑦特別講義「嘎仙洞石刻祝文にみる北魏王権の多元性」、ソウル大学校人文大学東洋史学科、ソウル大学（オンライン開催）、2023 年 4 月 1 日。
- ⑦講演「都城制分期的歴史学和考古学—以曹魏鄴城、洛陽城的復原為中心—」、ソウル大学・東京大学・清華大学三校博士生論壇、清華大学、2023 年 10 月 19 日。
- ⑦講演「嘎仙洞石刻祝文所見北魏王権的多元性—關於天子、皇帝、可汗与太平真君—」、「中古中国的多元伝統」系列講座（2）、北京大学、2023 年 10 月 20 日。
- ⑦コメンテーター、国際学術シンポジウムⅢ「東アジア古代都市調査の最前線」、東亜大学（オンライン）、2024 年 3 月 3 日。

森本一夫（RASARL 兼務教員/東洋文化研究所）

- ①Kazuo Morimoto and Sajjad Rizvi (eds.), *Knowledge and Power in Muslim Societies: Approaches in Intellectual History* (Berlin: Gerlach Press, 2023.6), viii + 421 pp.
- ② Kazuo Morimoto, “A Ja‘farid Zaynabid Genealogy from Thirteenth-Century Egypt: ‘Urbān Uprising, Najafī Connection, and the Representation of the Twelve Imams,” in Morimoto and Rizvi (eds.), *Knowledge and Power in Muslim Societies*, pp. 221–260.
- ②森本一夫「世界に広がる預言者ムハンマドの一族：「異」なるものへの共感」長沢栄治・後藤絵美編『東大塾 現代イスラーム講義』東京大学出版会、2023.9、67–97 頁。
- ③Sajjad Rizvi and Kazuo Morimoto, “Introduction: Diversifying the Intellectual History of Islam and Muslim Cultures,” in Morimoto and Rizvi (eds.), *Knowledge and Power in Muslim Societies*, pp. 1–12.
- ③森本一夫「序」ハーシェム・ラジャブザーデ編著；江浦公治協力；森本一夫序文『カーギヤール朝期の文書史料にみる婚姻と家族』（ペルシア語文書集成、10）、東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター、2023.1、1 頁。
- ③Kāzū’ū Mūrīmūtū, “Muqaddama,” in Hāshim Rajab-zada; Kīnjī Eūrā (cooperation); Kāzū’ū Mūrīmūtū (preface), *Nikāh wa khāniwāda dar 80 sanad-i dawra-’i Qājār*, Ganjīna-’i asnād-i Fārsī, 10 (Tokyo: Markaz-i Pazhūhish wa Ittilā‘-rasānī dar Muṭālī‘āt-i Pīshrafta-’i Āsiyā, Dānishgāh-i Tūkyū, 2023.1), pp. 5–6.
- ④Kazuo Morimoto, “An Eyewitness of the Religio-Political Climate of the Post-Mongol Persianate World: ‘Alī b. al-Qāsim al-Mūsawī al-Najafī the Genealogist and His Notebook,” The Ninth Biennial Convention of the Association for the Study of Persianate Societies (Russian Armenian University, Yerevan, Armenia), June 1, 2023.
- ④ Kāzū’ū Mūrīmūtū, “Ijāza-nāma-’ī barāyi taḥqīq-i ansāb-i sādāt az Najaf-i dar qarn-i nuhum-i Hijrī,” Majālis-i Kātībān 13 (Bunyād-i Muḥaqqiq Ṭabāṭabā’ī, Qom, Iran), March 4, 2024.

- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（B））「「スンナ派」と「シーア派」：自己意識と相互認識のイスラーム史研究にむけて」課題番号 23H00674、研究代表者、2023 年度～2026 年度。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（A））「イスラームおよびキリスト教の聖者・聖遺物崇敬の人類学的研究」課題番号 19H00564（研究代表者：赤堀雅幸）、研究分担者、2019 年度～2023 年度。
- ⑦森本一夫「世界に広がる預言者ムハンマドの一族」上智大学イスラーム地域研究所・京都大学ケナン・リファイー・スーフィズム研究センター主催 オンデマンド連続講演会「イスラームにおける聖性の継承：預言者、聖者の血統と聖遺物」（オンデマンド形式）2023 年 11 月 13 日～12 月 3 日。

河原弥生（RASARL 准教授）

- ①河原弥生・早矢仕悠太編、小野仁美解題『アジア研究図書館所蔵柳橋博之氏旧蔵資料目録』（アジア研究図書館叢書 5）、東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門、2024 年 3 月。
- ③河原弥生「アジア研究図書館の蔵書」『アジア研究図書館（東京大学アジア研究図書館ニューズレター）』13、2023 年 10 月、1-19 頁。
- ③河原弥生「アジア研究図書館の蔵書について〈5 中央ユーラシア〉」『アジア研究図書館（東京大学アジア研究図書館ニューズレター）』13、2023 年 10 月、44-49 頁。
- ④Kawahara Yayoi, “Turkic Translations of Muntakhab al-tawārīkh by Muḥammad Ḥakīm Khān,” 9th Biennial Convention of the Association for the Study of Persianate Societies, The Institute of Oriental Studies, Russian-Armenian (Slavonic) University, 2023 年 5 月 31 日。
- ④河原弥生「アジア研究資料としての識字教育コレクション：受贈から展示まで」令和 5 年度東京大学アジア研究図書館展示記念セミナー「識字教育資料からアジアの社会をみるーユネスコ・アジア文化センター寄贈コレクション」、2023 年 11 月 9 日。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（C））「19 世紀初頭の中央アジア知識人の著作と世界認識：歴史叙述と旅行記の検討を通して」課題番号 21K00903、研究代表者、2021 年度～2024 年度。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（B））「「スンナ派」と「シーア派」：自己意識と相互認識のイスラーム史研究にむけて」課題番号 23H00674（研究代表者：森本一夫）、研究分担者、2023 年度～2026 年度。
- ⑦非常勤講師 東京外国語大学言語文化学部「現代ウズベク語の成立」。
- ⑦非常勤講師 早稲田大学文化構想学部「多元文化論系演習（遊牧・オアシス文化論）中央アジアの歴史と文化」。
- ⑦非常勤講師 駒澤大学文学部「東洋史特講 VA」「東洋史特講 VB」。
- ⑦東京大学東洋文化研究所、研究班「「スンナ派」と「シーア派」：自己意識と相互認識のイスラーム史」（主任：森本一夫）、共同研究者。

河崎豊 (RASARL 助教)

- ①板橋暁子、河原弥生、河崎豊 (編) 『識字教育資料からアジアの社会をみる : ユネスコ・アジア文化センター寄贈コレクション : 令和5年度東京大学アジア研究図書館展示図録』、東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門、2023年11月。
- ③河崎豊「アジア研究図書館の蔵書について<4 南アジア>」『アジア研究図書館 (東京大学アジア研究図書館ニューズレター)』13、2023年10月、37-43頁。
- ③河崎豊「ジャイナ教書誌備忘」『ジャイナ教研究』29、2023年12月、89-100頁。
- ③河崎豊 (編・著) 『Kāyotsarga 研究資料集』、科学研究費・基盤研究 (C) (課題番号 21K00048) 「アーヴァシユヤカ文献を中心とする「身体放棄行」というジャイナ教瞑想法の総合的研究」成果報告書、2024年3月。
- ④河崎豊「Jainism: Similarities with Buddhism, Its Contemporary Values」、Lecture series on Jainism、The Embassy of India in Japan、2023年5月26日。
- ④河崎豊「カーヤ・ウトサルガと現世利益」日本印度学仏教学会第74回学術大会、2023年9月3日。
- ④河崎豊「物語 (カター) 文献におけるカーヤ・ウトサルガの表象」ジャイナ教研究会第38回研究会、2023年10月28日。
- ④河崎豊「東京大学アジア研究図書館の蔵書評価」令和5年度アジア情報関係機関懇談会、2024年2月9日。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)) 「アーヴァシユヤカ文献を中心とする「身体放棄行」というジャイナ教瞑想法の総合的研究」課題番号 21K00048, 研究代表者、2021年度~2023年度。
- ⑦兼任講師 中央大学文学部「インド哲学史通覧」
- ⑦東京大学東洋文化研究所、研究班「上座部文献の研究」 (主任: 馬場紀寿)。
- ⑦環インド洋地域研究・大阪大学拠点 (HINDOWS)、研究分担者。

板橋暁子 (RASARL 助教)

- ①板橋暁子 (責任編集)、河原弥生・河崎豊 (編) 『令和5年度東京大学アジア研究図書館展示図録: 識字教育資料からアジアの社会をみる : ユネスコ・アジア文化センター寄贈コレクション』東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門、2023年11月。
- ③板橋暁子「『東アジアは「儒教社会」か?』評」『WEB 東方』2023年5月15日 (https://www.toho-shoten.co.jp/web_toho/?p=3975)。
- ③板橋暁子「アジア研究図書館の蔵書について<2 東アジア>」『アジア研究図書館 (東京大学アジア研究図書館ニューズレター)』13、2023年10月、20-26頁。
- ③板橋暁子「2023年度図書館総合展 出展報告」『アジア研究図書館 (東京大学アジア研究図書館ニューズレター)』14、2024年1月、5-7頁。
- ④Itahashi Akiko, “Getting Promoted to a Wife: Flexibility and Inflexibility of Domestic Female Status from the Tang to the Ming-Qing Period,” 2023 ISCLH (International Society for Chinese Law and History) Biennial Conference (online), 2023年7月14日。
- ④板橋暁子「東晋元帝と後漢光武帝をめぐる礼議」日本中国学会第75回大会、2023年10月8日。

④Itahashi Akiko, “Division and Fusion of the Materials in the Periods of the Western and Eastern Jin, Southern and Northern Dynasties from the Viewpoint of Text Comparison: A Work in *Yiwen Leiju* as an Example,” World University Forum on Ancient Chinese Books hosted by Center for Ancient Chinese Classics & Archives of Peking University (hybrid), 2023 年 10 月 22 日。

⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（若手研究）「魏晋南北朝隋唐時代における婚姻規範と実践」課題番号 21K13115、研究代表者、2021 年度～2023 年度。

⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（B））「東アジア各国の「姓・生・性」の変容の比較的研究—「東アジアの奇跡」の裏側で」課題番号 21H03731（研究代表者：小浜正子）、研究分担者、2021 年度～2025 年度。

⑦非常勤講師 法政大学市ヶ谷リベラルアーツ「東洋史 I/II」

⑦非常勤講師 法政大学通信教育部「東洋史（春期／秋期スクーリング）」

⑦非常勤講師 埼玉大学教育学部「外国史特講 A」「外国史概論」

(2) U-PARL メンバー

蓑輪顕量（U-PARL 部門長・兼務教員/大学院人文社会系研究科）

②蓑輪顕量「タイランド・仏教瞑想調査記」『仏教文化』63 号、2024 年 3 月、76-104 頁。

④蓑輪顕量「仏教瞑想の歴史とその展開—その階梯（念処・止観）と方法」日本マインドフルネス学会第 10 回大会、基調レポート、東京大学本郷キャンパス、2023 年 12 月 17 日。

④蓑輪顕量「仏教学・心理学・脳科学の接点—仏教瞑想を軸に」人と社会の未来研究院上廣倫理財団寄附研究部門研究報告会「伝統知×科学・技術でさぐる『未来型ウェルビーイング』：仏教の思想と瞑想の観点から」京都大学稲盛財団記念館、2024 年 1 月 21 日。

⑥日本学術振興会科学研究費助成事業（基盤研究（A））「仏教学・心理学・脳科学の協同による止観の総合的研究」課題番号 22H00001、研究代表者、2022 年度～2026 年度。

上原究一（U-PARL 副部門長・兼務教員/東洋文化研究所）

②上原究一「明刊本小説『新刻彙正十八國鬪寶傳』の発見とその意義——伍子胥が主人公の「全相平話」が存在した可能性を視野に——」『日本中国学会報』第 75 号、2023 年 10 月、152-167 頁。

②上原究一「『義釈』続考——嚴顔は張飛に降りしや否や？」『明清文学論集』編集委員会編『明清文学論集：その楽しさ その広がり』東方書店、2024 年 3 月、3-30 頁。

④上原究一「小説・戯曲・説唱を貫くもの——伍子胥の物語を例に——」東方学会第 67 回国際東方学会者会議シンポジウムⅢ「鄭振鐸『中国俗文学史』とその後——歌謡と説唱研究の展開と課題」日本教育会館、2023 年 5 月 20 日。

④上原究一「病関索と病尉遲——何故この二人は「病」なのか——」東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄附研究部門（U-PARL）協働型アジア研究「東京大学蔵『水滸伝』諸版本デジタルデータの整備およびこれを用いた研究」2023 年度第 1 回研究報告会、東京大学総合図書館、2023 年 8 月 25 日。

④上原究一「『三国志演義』のイケメンは誰だ？——明末清初諸版本の本文と挿画から」黒川古文化研究所・西宮市・西宮市教育委員会共催第 69 回夏季講座「豊穰なる乱世——明末の芸苑と消費社会——」西宮市プレラホール、2023 年 9 月 2 日。

④上原究一「『三国演義』における呂布と馬超の造形をめぐって」中国古典小説研究会 2023 年度大会、東京大学東洋文化研究所（ハイブリッド開催）、2023 年 12 月 17 日。

松本武祝 (U-PARL 兼務教員/大学院農学生命科学研究科教授)

⑥日本学術振興会科学研究費助成事業(基盤研究(B))「地方行政領域の歴史的系譜に関する比較史分析—日本・朝鮮・中国・インド」課題番号 21H02298、研究代表者、2021年度～2023年度。

高橋美保 (U-PARL 兼務教員/大学院教育学研究科教授)

④高橋美保「日本の心理療法“内観療法”の可能性—素直になるということ—」第45回日本内観学会、大会長講演、東京大学本郷キャンパス伊藤国際学術研究センター、2023年5月27-28日。

④高橋美保「アジアにおけるコミュニティ心理学の土着化 Indigenizing Community Psychology in Asia」第1回アジア・国際コミュニティ心理学セミナーThe First Global Community Psychology Seminar in Asia SCRA、国際基督教大学、2023年7月21-23日。

⑥日本学術振興会科学研究費助成事業 二国間交流事業共同研究・セミナー 韓国(NRF)との共同研究「COVID-19による心理的ストレスと対処:日本と韓国の国際比較研究」、研究代表者 2022～2023年度。

⑥日本学術振興会科学研究費助成事業(基盤研究(B))「COVID-19関連失業者の心理的ストレスと包括的支援—環境と個人へのアプローチ」課題番号 21H00945、研究代表者、2021年度～2024年度。

海野聡 (U-PARL 兼務教員/大学院工学系研究科准教授)

②海野聡「前近代日本の建築工匠と生産組織」한국건축역사학회 (주최), 전통건축과 장인, 그리고 도구 ((사)한국건축역사학회 2023년 추계학술대회), 한국건축역사학회, Nov. 2023, pp. 195-225.

②海野聡「法隆寺西院伽藍の建築群と古代東アジアの建築技術伝播に関する試論」『仏教文化研究論集』第24号、2024年3月、3-39頁。

④UNNO Satoshi, “The Methods and Philosophy of Wooden Architectural Heritage Conservation in JAPAN,” on the convening of the “First International Congress on Ancient Wooden Architecture,” notice, 18th Oct. 2023, Online.

④UNNO Satoshi, “Philosophy and Record of Wooden Architectural Heritage Conservation in JAPAN,” The international symposium on Conservation and Utilization of Timber-framed Structure in East Asia, Minglun Hall, Confucius Temple of Quanzhou, 25th Nov. 2023.

④海野聡・金田章裕・崔ゴウン『建築図面史料と実態のはざま～東アジアにおける建築図面史料の史的価値』国際対談、京都学・歴彩館、2023年12月9日。

⑥日本学術振興会科学研究費助成事業(基盤研究(A))「東アジアにおける工匠関連史料にもとづく建築生産史の再構築と技術蓄積・伝播の解明」課題番号 22H00231、研究代表者、2022年度～2026年度。

⑥日本学術振興会科学研究費助成事業(挑戦的研究(萌芽))「美術史学・考古学・建築史学の複合手法による東アジア建築技術伝播ルートの解明」課題番号 22K18841、研究代表者、2022年度～2024年度。

徳原靖浩 (U-PARL 特任助教)

- ②徳原靖浩「アジア研究図書館の書架分類とアジア資料の分類の動向について」『専門図書館』第314号、2023年9月、16-21頁。
- ③徳原靖浩「アジア研究図書館の蔵書について<1 アジア>」『アジア研究図書館（東京大学アジア研究図書館ニューズレター）』13、2023年10月、13-19頁。
- ③徳原靖浩「アジア研究図書館の蔵書について<6 西アジア>」『アジア研究図書館（東京大学アジア研究図書館ニューズレター）』13、2023年10月、50-56頁。
- ③徳原靖浩「東洋文庫」日本図書館情報学会編『図書館情報学事典』丸善出版、2023年7月、582頁。
- ③徳原靖浩「(コラム) Unicode とアラビア文字：文字をグローバルに繋げる仕組み」須永恵美子・熊倉和歌子編著『イスラーム・デジタル人文学』人文書院、2024年2月、87-89頁。
- ⑦公益財団法人東洋文庫、研究員(客員)。
- ⑦東京大学東洋文化研究所、研究班「ペルシア語文化圏研究」(主任：森本一夫)、共同研究者。
- ⑦非常勤講師 東京外国語大学世界教養プログラム「ペルシア語講読 II」。

荒木達雄 (U-PARL 特任研究員)

- ②荒木達雄「アジア研究図書館デジタルコンテンツ「水滸伝コレクション」の現状と展望」U-PARL 編『なぜ古い本を網羅的に調べる必要があるのか 漢籍デジタル化公開と中国古典小説研究の展開』、文学通信、2023年12月8日、55-88頁。
- ②荒木達雄「石渠閣出版活動続考」明清文学論集編集委員会編『明清文学論集：その楽しさ その広がり』東方書店、2024年3月、257-276頁。
- ③高島俊男原著、荒木達雄・石川就彦・藤村明日香翻刻・校注『翻刻 高島俊男《水滸伝語彙辞典稿》Jの部(下)』U-PARL 協働型アジア研究「東京大学蔵水滸伝諸版本デジタルデータの整備およびこれを用いた研究」、《水滸伝語彙辞典稿》翻刻チーム、2023年12月。
- ③荒木達雄編『2022-2023年度 U-PARL 協働型アジア研究「東京大学蔵水滸伝諸版本デジタルデータの整備およびこれを用いた研究」成果報告集』、2022-2023年度 U-PARL 協働型アジア研究「東京大学蔵水滸伝諸版本デジタルデータの整備およびこれを用いた研究」、2024年3月。
- ④荒木達雄「成本與講究之間——水滸傳簡本」ワークショップ「書頁邊緣：中國書籍史與文本政治國際學術研討會」、中央研究院中国文哲研究所、2023年11月30日。
- ⑥日本学術振興会科学研究費助成事業(若手研究)「水滸伝語彙辞典稿」の継承と発展」課題番号23K12109、研究代表者、2023年度～2025年度。
- ⑦荒木達雄「文献で見る「パンダ観」の歴史(古代篇)(U-PARL アジアンライブラリーカフェ No.7:「パンダはかわいい!」は常に真実なのか?～文献で見る「パンダ観」の歴史)」、東京大学総合図書館(オンラインライブ配信あり)、2023年10月24日。
- ⑦非常勤講師 神奈川大学国際日本学部「留学生対象中日翻訳」
- ⑦非常勤講師 神奈川大学国際日本学部「日本語演習C1」
- ⑦非常勤講師 神奈川大学外国語学部「中国文化特講A」
- ⑦非常勤講師 神奈川大学外国語学部「中国文化特講B」
- ⑦非常勤講師 神奈川大学外国語学部「日中比較文化講義」

澁谷由紀 (U-PARL 特任研究員)

- ①澁谷由紀編『アジア研究図書館所蔵古田元夫氏旧蔵資料目録』(アジア研究図書館叢書 4) 東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門。
- ②澁谷由紀「アジア研究図書館の蔵書について<3 東南アジア>」『アジア研究図書館 (東京大学アジア研究図書館ニューズレター)』13、2023年10月、27-36頁。
- ③澁谷由紀・宇戸優美子・佐藤章太編『ライブラリアンのためのベトナム語・タイ語用語集 : ラオス語・クメール語用語集付き』(第2版)、東京大学附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門 (U-PARL)、2024年3月。
- ④澁谷由紀「五味政信氏旧蔵ベトナム語関係資料について」『アジア研究図書館 (東京大学アジア研究図書館ニューズレター)』12、2023年7月3日、2-4頁。
- ⑤澁谷由紀「東南アジア (アジア研究図書館の蔵書について)」『アジア研究図書館 (東京大学アジア研究図書館ニューズレター)』13、2023年10月2日、27-36頁。
- ⑥澁谷由紀・千葉綾乃・チンガイリャン「ラオス語・ビルマ語を扱う書店・出版社紹介」『アジア研究図書館 (東京大学アジア研究図書館ニューズレター)』14、2024年1月9日、13-15頁。
- ⑦澁谷由紀「玉皇殿 (「ダカオのパゴダ」) ——フランス人東洋学者を魅了したベトナムの華人『寺』」U-PARL 編『東京大学アジア研究図書館デジタルコレクション 2017—2023』2024年2月、76-77頁。
- ⑧柳澤雅之・小川有子・藤倉哲郎・澁谷由紀編『百穀社通信』22号 (GCR Working Paper Series No.2)、2024年3月。
- ⑨SHIBUYA Yuki. “The Ngoc-Hoang Pagoda (La Pagode de Dakao) — An Ethnic Chinese Temple in Vietnam That Fascinated French Orientalists.” <https://u-parl.lib.u-tokyo.ac.jp/english/column85>, 2024年3月25日。
- ⑩澁谷由紀「ベトナムの出版物をめぐる状況—書店街の風景と図書館 OPAC から— (現代東南アジアにおける出版に関する諸問題—ベトナムとタイを中心に—)」第25回図書館総合展、2023年10月24-25日、パシフィコ横浜 (宇戸優美子との共同ポスター報告)。
- ⑪日本学術振興会科学研究費助成事業 (若手研究)「GIS を利用した近現代史資料の集約・可視化によるベトナム南部村落の類型化」課題番号 19K13441、研究代表者、2019~2023年度。
- ⑫日本学術振興会科学研究費助成事業 (基盤研究 (B)・一般)「ベトナム紅河デルタ村落における共同体の再編—生計の多様化と生活の安定化」課題番号 21H03707 (研究代表者: 柳澤雅之)、研究分担者、2021~2025年度。
- ⑬非常勤講師 法政大学通信教育部「東洋史特講 (東南アジア史)」
- ⑭非常勤講師 法政大学文学部「東洋史特講 II」
- ⑮非常勤講師 放送大学教養学部「ベトナム近現代史」
- ⑯非常勤講師 放送大学教養学部「ベトナム語の初歩: 文化編」
- ⑰非常勤講師 放送大学教養学部「性差から見る東南アジア大陸部」(オムニバス)
- ⑱非常勤講師 神田外語大学外国語学部「ベトナムの文化・芸術」

須永恵美子 (U-PARL 特任研究員)

- ①須永恵美子・熊倉和歌子編『イスラーム・デジタル人文学』人文書院、2024年2月。
- ②SUNAGA Emiko “Educational Reform and International Baccalaureate in the Asia-Pacific”, Asia-Japan Research Academic Bulletin 4: 1-3, Released on J-STAGE May 2023. (査読あり) (Online ISSN: 2435-306X) (DOI 10.34389/asiajapanbulletin.4.0_71)
- ②須永恵美子「GIS を用いたパキスタンにおける出版産業の可視化と空間的展開—書店・出版社の空間データ構築とその分析可能性—」『高崎商科大学紀要』第38巻、2023年12月、237-245頁。
- ②須永恵美子「天幕からショッピングモールの言葉へ——形を変えて継続するウルドゥー語教育」杉野俊子監修、田中富士美・柿原武史・野沢恵美子編『言語教育のマルチダイナミクス』明石書店、2024年3月、76-86頁。
- ②須永恵美子「イスラーム・デジタル人文学ことはじめ」須永恵美子・熊倉和歌子編『イスラーム・デジタル人文学』人文書院、2024年2月、6-32頁。
- ②須永恵美子「自動文字認識とテキスト化——Transkribus によるウルドゥー語の自動翻刻」須永恵美子・熊倉和歌子編『イスラーム・デジタル人文学』人文書院、2024年2月、90-113頁。
- ③須永恵美子「世界の冠婚葬祭を訪ねる—パキスタン」川田牧人・松田素二編『世界の冠婚葬祭事典』丸善出版、2023年12月、158-161頁。
- ③須永恵美子「IIIF—世界のデジタル資料を比較して閲覧する」須永恵美子・熊倉和歌子編『イスラーム・デジタル人文学』人文書院、2024年2月、256-257頁。
- ③須永恵美子「イスラーム圏のデジタル資料を扱う研究プロジェクト・公文書館・デジタルアーカイブ資料」須永恵美子・熊倉和歌子編『イスラーム・デジタル人文学』人文書院、258-264頁、2024年2月。
- ④須永恵美子「現代日本におけるイスラーム研究者のつながりと生存戦略」科研費学術変革領域研究 (A) 「イスラーム的コネクティビティにみる信頼構築：世界の分断をのりこえる戦略知の創造」C01 班叢書執筆に向けた研究会議、金沢星稜大学、2023年9月25日。
- ④SUNAGA Emiko. “New Developments in Humanities Research Using the ‘Next Digital Library’: A Study on the Description of ‘Halal’ in Japanese Historical Archives” in the 1st International Conference on Islamic and Halal Economic Studies (ICHIHES 2023) and 3rd international Conference on Islamic Law, Economics and Finance (SPEKI 2023). Putrajaya Marriot Hotel, Malaysia, 2023年11月29日。
- ④SUNAGA Emiko. “Exploring the Potential of Online Urdu Poetry Analysis Using Digital Humanities” Asia Pacific Conference 2023. Ritsumeikan Asia Pacific University, Oita, 2023年12月3日。
- ④SUNAGA Emiko. “Living with English: Multilingual Societies and Language Education in South Asia” in the Fifth International Colloquium on Asian Paths of Civilization and Development: Promoting Post-COVID International Collaboration, Asia-Japan Research Institute of Ritsumeikan University, Osaka, 2024年2月26日。
- ④SUNAGA Emiko. “Perceptions of Islam in 20th century Japan from the Digital Archive of the National Diet Library Poster” in the 3rd Islamic Trust Studies International Conference, “Exploring the Tacit Knowledge of Trust Building and Connectivity amidst Predicaments,” 2024年3月2日。

④須永恵美子「ブックローンチ：イスラーム・デジタル人文学（人文書院 2024 年 2 月）」立命館大学アジア日本研究所、立命館大学中東イスラーム研究センター（オンライン）、2024 年 3 月 13 日。

⑦須永恵美子「パキスタン 21 世紀年表」、立命館大学アジア・日本研究所『アジア・マップ Vol.01』2023 年 6 月 1 日。

https://www.ritsumeai.ac.jp/research/aji/asia_map_vol01/pakistan/timeline/

⑦須永恵美子「総説 パキスタンという国」、立命館大学アジア・日本研究所『アジア・マップ Vol.01』2023 年 9 月 1 日。

https://www.ritsumeai.ac.jp/research/aji/asia_map_vol01/pakistan/country/

⑦非常勤講師 日本女子大学「社会と文化：イスラム」

⑦非常勤講師 高崎商科大学「多様性と社会」

中尾道子（U-PARL 特任研究員）

③中尾道子「U-PARL セレクション」U-PARL 編『東京大学アジア研究図書館デジタルコレクション 2017—2023』2024 年 3 月、47-48 頁。

③中尾道子「諺解本について」U-PARL 編『東京大学アジア研究図書館デジタルコレクション 2017—2023』2024 年 3 月、62-63 頁。

⑦非常勤講師 青山学院大学「韓国語I」

⑦非常勤講師 京都芸術大学通信教育部「アジア美術論」

⑦講師 早稲田大学エクステンションセンター夏学期講座「韓国美術史への招待—隣国の美に親しむ」

IV.構成員等名簿

4.1 運営委員会名簿

令和5年度のアジア研究図書館運営委員会名簿は以下の通りである。

佐川英治（委員長 / 大学院人文社会系研究科）
 平野聡（大学院法学政治学研究科）
 肥爪周二（大学院人文社会系研究科）
 松本武祝（大学院農学生命科学研究科）
 小島庸平（大学院経済学研究科）
 川島真（大学院総合文化研究科）
 森本一夫（東洋文化研究所）
 小寺敦（東洋文化研究所）
 石原章史（社会科学研究所）
 苅部直（附属図書館副館長 / 大学院法学政治学研究科）
 蓑輪顕量（大学院人文社会系研究科）
 永井正勝（U-PARL）※令和5年6月末まで
 河原弥生（RASARL）
 大山努（附属図書館事務部長）

4.2 構成員名簿

令和6年3月31日現在の構成員は以下の通りである。

館長：佐川英治（大学院人文社会系研究科）

RASARL構成メンバー

佐川英治（部門長・兼務教員/大学院人文社会系研究科）
 森本一夫（兼務教員/東洋文化研究所）
 河原弥生（准教授）
 河崎豊（助教）
 板橋暁子（助教）

U-PARL構成メンバー

蓑輪顕量（部門長・兼務教員/大学院人文社会系研究科）
 上原究一（副部門長・兼務教員/東洋文化研究所）
 松本武祝（兼務教員/大学院農学生命科学研究科）
 高橋美保（兼務教員/大学院教育学研究科）
 海野聡（兼務教員/大学院工学系研究科）
 徳原靖浩（特任助教）
 荒木達雄（特任研究員）
 澁谷由紀（特任研究員）
 須永恵美子（特任研究員）
 中尾道子（特任研究員）

別紙 1

東京大学アジア研究図書館レクチャールーム予約利用内規

令和5年7月20日
総合図書館長裁定

(趣旨)

第1条 この内規は、東京大学総合図書館規則第7条第3項及び東京大学アジア研究図書館規則第9条の規定に基づき、東京大学アジア研究図書館レクチャールーム（以下、「レクチャールーム」という。）の利用について、東京大学アジア研究図書館利用規則に定めるもののほか必要な事項について定める。

(利用者)

第2条 レクチャールームを利用できる者（以下、「利用者」という。）は、次に掲げる者とする。

- (1) 東京大学（以下、「本学」という。）の役員及び教職員
- (2) 本学の学生、研究生及び聴講生
- (3) 第1号に規定する者の主催する行事に参加する学外者
- (4) その他総合図書館長が特に認めた者

(予約利用)

第3条 利用者は、本学におけるアジアに関する研究及び教育に資する以下の目的の場合に、事前に予約した上でのレクチャールームの利用（以下、「予約利用」という。）を行うことができる。

- (1) アジア研究図書館が主催または共催する講習会、行事等
- (2) 本学の役員及び教職員により行われる授業、セミナー、講演会、展示会等
- (3) 本学の学生及び学生団体が主催する研究会、イベント等
- (4) その他総合図書館長が適当と認めたもの

(予約利用の申請及び許可)

第4条 予約利用を希望する場合には、第2条第1号及び第2号に該当する者を申請者として、利用希望日の3ヶ月前から1週間前までに、日時、目的等を図書館ホームページから申請する。ただし、同条第2号に該当する者が申請者の場合には、第1号に該当する者を利用責任者にしなければならない。

2 前項の申請内容について、前条各号に定める事項との適否等を審査し、その結果を申請者に通知する。

(予約利用時間及び人数)

第5条 予約利用時間は、開館時から閉館の30分前までとし、準備及び片付け時間を含むものとする。ただし、第3条第2号及び第3号の利用については、1日4時間を限度とし、他の予約がない場合には2時間まで延長可能とする。

2 予約利用人数は、2名以上18名以下とする。

(予約利用上の遵守事項)

第6条 予約利用にあたって、利用者は次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 公序良俗に反する内容、差別を助長するような内容の活動は行わないこと。
- (2) 特定の団体の宣伝、勧誘を目的とする活動は行わないこと。
- (3) 本学の公共性及び公益性を損なうおそれがある活動は行わないこと。
- (4) 営利を目的とする活動は行わないこと。
- (5) レクチャールームの施設及び設備を故意又は不適切な利用により損なわないこと。
- (6) 必要以上の大声や機器の騒音、予約対象外の場所の占有など、他の利用者の迷惑となる行為は行わないこと。
- (7) 申請時に記載された事項と異なる利用をしないこと。
- (8) その他総合図書館の注意事項及び職員の指示に従うこと。

(予約利用の中止等)

第7条 総合図書館長は、次の各号に掲げる場合において、当該利用の中止又は退去を命じ、予約の取消を行う等、必要な措置を行うことができる。

- (1) 利用者が前条各号に反する行為を行ったとき。
 - (2) 総合図書館において安全管理上の事由が生じたとき。
 - (3) 予約申請時に記載された事項が事実と反するとき。
 - (4) その他総合図書館長が利用を適当でないと認めたとき。
- 2 前項の規定に基づき、利用の中止若しくは退去又は予約の取消に伴い損害が発生したとしても、総合図書館はいかなる補償も行わない。

(その他)

第8条 この内規に定めるもののほか、レクチャールームの利用に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この内規は 令和5年9月1日から施行する。

Memorandum of Understanding on Cooperation
between the
Asian Research Library, The University of Tokyo Library System,
The University of Tokyo
and the
Organization of Libraries, Museums and Documentation Center of Āstān Quds Rażavī

The Organization of Libraries, Museums and Documentation Center of Āstān Quds Rażavī and the Asian Research Library, The University of Tokyo Library System, The University of Tokyo (hereinafter referred to as the “Parties”), desiring to strengthen the cooperation between the Parties and considering the benefits for each Party arising from joint activities and projects, have reached the following understanding.

The Parties will endeavor to develop and implement joint activities and projects in the fields relevant to the enhancement and updating of the library services provided by the Parties and to the promotion of intercultural understanding.

The Parties will consider taking up the following forms of cooperation.

Article 1: Sharing Information and Experiences

- 1.1 Exchange of information and experiences relevant to the enhancement and updating of the library services in the physical and virtual domains, including in such fields as development of electronic resources and digital libraries and the conservation and restoration of library resources.
- 1.2 Cooperation between experts and researchers affiliated to or nominated by the Parties in education and research related to such fields as documentation, information science, edition of manuscripts and documents, translation, and publication (hereinafter “relevant fields”).

Article 2: Exchange of Library Materials and Digital Collections

- 2.1 Creation and sharing of digital collections of mutual interest.
- 2.2 Exchange of materials published by the Parties in relevant fields.

Article 3: Cooperation in Human Resource Development

- 3.1 Cooperation in human resource development through mutual visits, internships, and organization of training events.

Article 4: Research Collaboration

- 4.1 Cooperation between experts and researchers affiliated to or nominated by the Parties in the research in relevant fields.
- 4.2 Hosting and assisting qualified researchers affiliated to or introduced by the other Party during their sojourns to conduct research in the fields of their interests.

Terms & Conditions

The Parties will cooperate on the basis of equality, openness and respect for each other’s rights and traditions.

The Parties recognize differences in their legal statuses, administrative structures and sources of financing. This Memorandum is not intended to create any legally binding obligations and will be carried out in accordance with the laws and regulations applicable respectively to the Parties. The realization of the understanding in this Memorandum is subject to the availability of funds and other resources.

Any differences in the interpretation pertaining to the implementation of this Memorandum will be resolved through consultations between the Parties.

This Memorandum can be amended only by the mutual agreement of the Parties expressed in writing.

This Memorandum will come into effect on the date of the second signature. It will remain in effect for five years or until terminated by either Party upon a written notice to the other Party at least three months in advance.

In order to put the understanding in this Memorandum in practice, each Party designates a representative to discuss possible concrete measures.

This Memorandum is hereby signed in Tokyo and in Mashhad in English in 2 (two) copies, one for each Party. Both of the 2 (two) copies shall be deemed as originals.

Signed for and on behalf of the Asian Research Library, University of Tokyo Library System, University of Tokyo by

.....
Professor Eiji Sagawa, Director of the Asian Research Library
Date:

Signed for and on behalf of the Organization of Libraries, Museums and Documentation of Āstān Quds Rażavī by

.....
[Name] , Director of the Organization of Libraries, Museums and Documentation of Āstān Quds Rażavī
Date:

Memorandum of Understanding on Cooperation
between the
Organization of Libraries, Museums and Documentation Center of Āstān Quds Rażavī
and the
Asian Research Library, The University of Tokyo Library System,
The University of Tokyo

The Organization of Libraries, Museums and Documentation Center of Āstān Quds Rażavī and the Asian Research Library, The University of Tokyo Library System, The University of Tokyo (hereinafter referred to as the “Parties”), desiring to strengthen the cooperation between the Parties and considering the benefits for each Party arising from joint activities and projects, have reached the following understanding.

The Parties will endeavor to develop and implement joint activities and projects in the fields relevant to the enhancement and updating of the library services provided by the Parties and to the promotion of intercultural understanding.

The Parties will consider taking up the following forms of cooperation.

Article 1: Sharing Information and Experiences

- 1.1 Exchange of information and experiences relevant to the enhancement and updating of the library services in the physical and virtual domains, including in such fields as development of electronic resources and digital libraries and the conservation and restoration of library resources.
- 1.2 Cooperation between experts and researchers affiliated to or nominated by the Parties in education and research related to such fields as documentation, information science, edition of manuscripts and documents, translation, and publication (hereinafter “relevant fields”).

Article 2: Exchange of Library Materials and Digital Collections

- 2.1 Creation and sharing of digital collections of mutual interest.
- 2.2 Exchange of materials published by the Parties in relevant fields.

Article 3: Cooperation in Human Resource Development

- 3.1 Cooperation in human resource development through mutual visits, internships, and organization of training events.

Article 4: Research Collaboration

- 4.1 Cooperation between experts and researchers affiliated to or nominated by the Parties in the research in relevant fields.

4.2 Hosting and assisting qualified researchers affiliated to or introduced by the other Party during their sojourns to conduct research in the fields of their interests.

Terms & Conditions

The Parties will cooperate on the basis of equality, openness and respect for each other’s rights and traditions.

The Parties recognize differences in their legal statuses, administrative structures and sources of financing. This Memorandum is not intended to create any legally binding obligations and will be carried out in accordance with the laws and regulations applicable respectively to the Parties. The realization of the understanding in this Memorandum is subject to the availability of funds and other resources.

Any differences in the interpretation pertaining to the implementation of this Memorandum will be resolved through consultations between the Parties.

This Memorandum can be amended only by the mutual agreement of the Parties expressed in writing.

This Memorandum will come into effect on the date of the second signature. It will remain in effect for five years or until terminated by either Party upon a written notice to the other Party at least three months in advance.

In order to put the understanding in this Memorandum in practice, each Party designates a representative to discuss possible concrete measures.

This Memorandum is hereby signed in Mashhad and in Tokyo on in English in 2 (two) copies, one for each Party. Both of the 2 (two) copies shall be deemed as originals.

Signed for and on behalf of the Organization of Libraries, Museums and Documentation of Āstān Quds Rażavī by

.....
[Name] , Director of the Organization of Libraries, Museums and Documentation of Āstān Quds Rażavī
Date:

Signed for and on behalf of the Asian Research Library, University of Tokyo Library System, University of Tokyo by

.....
Professor Eiji Sagawa, Director of the Asian Research Library
Date:

令和 5 年度東京大学アジア研究図書館活動報告書

令和 6 年 7 月 22 日 発行

編集・発行 東京大学アジア研究図書館研究開発部門

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

asialib@lib.u-tokyo.ac.jp

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia>